

一 沈 七兩一分 ^二 丁子 二兩二分 ^{一分} 三 甲香 二兩一分 ^{一分}

^四 麝香 一分 ^五 白檀 一分 ^六 茸松 一分

熟鬱金 二分

去年此法より此の合乃事あり

まじき

右五月兩日記以能勢頼齋屋代弘賢横田茂語蔵本校合了

名香合 志野宗信家

一番

左 道遙

清偈信秀直

肖柏

右 中汀

柏憲

大偈

ふたり此香とふかしのとよきとて莊子乃道
を慈心海くを乃けりゆりいソウヤ
小偈ぬり吉此中河又ふかやりにまら
いさかのこ^{小御}はふり人香を御ソウ
おやうまよあくるゆりはるを此お若
一様くあやしく昔此後よりて居り

孝ふみかひしりあふ及ふくくゆ
をいぬ乃きふれとてふあうと神
ふりよとを侍守りあや

二番

丸 法花經

二憲秀

祐憲

右 手枕

種信卿

行二

法花經のうき事奥あるゆゑくゆ
まこととくいし香也最芽一乃うんハ
申のくゆりしを古れ手枕又えん
ゆりしるくあさ絲のて我くあけし

ふくいしとさうんおむき白ひる
即菩提のこころをさし手枕まのた
ゆりしるんこのうとを花くく
をせんとせゆり

三番

左 漂渡

柏清秀種々信

兼直

古 七夕

二

元種

左のこぼつてくやくらあゆり
くさなるやゆり方人もま
くを右れ七夕も秋風乃く

多年たつとわらうもあつとつとやうふあを
中はさゆふ

左 蘭子 拍偈二種心憲

玄清

右 斜月 清玄

盛卿

花んすハ花きくくしてもよののあはれを
をのくちの後のあゆりとき斜月又とこく
花もくろく空山乃接の輝くつと感懐ふ
うく那とゆいふあふととりききつとく
うせ

あ番

左 紅塵 秀憲

宗信

右 鶴胡班 拍偈信卿

長秀

紅塵空にまゝ立らぬくたむあくゆり
たぐもあはれはくく白いもすくせたり
満江たぬ乃言ふ心とつとれ斗り下りてあ
人く感懐しとつとあれとさばあゆり
花くくあをさへてあ言れはハなぬあゆ
らく乃趣にとくれとあハ中かやくや

六番

園城寺

大偈

古木

元後二月

祐憲

凡此園城寺人々をば後す程乃事不
 比教ふくて二舎の境乃をせんむ心此香風
 色かくやと涼くをてゆりし小古木を又ら
 う記せりしそと法しこや心ゆふあいと
 し音成ゆりしこや根こしこやとらや
 ちこもそあんあて小元後二月ありし
 申ふとよ公ゆりし

七番

瓦雲井

在程口

行二

右中河

柏偈二秀憲

宗信

身を此代わしたるまの乃か下り六伴せの海
 成るへふ為乃うまをり多に思ふ海么とこも
 右中河ありしひかわれし事しつとて沈
 まさきて黄河の十年成ゆきたる河
 て得とくくうとあふふありゆり

八番

右明月

清憲

元種

右花色

程伝

玄清

四月五日 花道乃めくま色侍一と及自然乃
ましくと色いつ海一長祐乃あさう公
く色より分ころりく之かの黄門乃及
乃ゆく赤とがうりくせまこ小然こま
去さひく一願れままやうまくの面
いつせと定めかこく

九番

左 富士煙 二車

右 揚貴妃

柏清偈口位

盛御 無直

と乃煙く誠まよとふくくわん成りり六人

く色ぬ深墨れ付小あさうく女あうり
かこくや作乃形之の煙揚貴妃如羽衣
乃袂あ羽のむと色いつれと分くく音巖
音まれはこまはもゆくくうれと是侍し
十番

左 隣家

柏重種憲

長秀

右 花ノ音

偈秀位

岸柏

左れ音むの海て白ひくハ孤あうぬ煙を
あうたれて地つりまやうにゆりふ花若
富んせかこれくえ乃く暖ふ花うくハあて

正説邦及百川學海
正編注宋洪錫收入
香譜其書論説名香
品類且其序云宋
禪字尉宗撰和香
方

うらふらふたまたま判者ふゆるをたけふ事
成せしりるをせふとて終り終りまふ
を申すもく得とてかとうともこつれく
ちうくハハくうとるす侍
文龜如くうらうらふ月下れある風流の人
く交若はくううらうさかくはうまはく
を養物ありを那とのたけけけいおま
宗信乃毫下り志て名香のそふにうらう
たうくく先侍まけのよふ心蔚宗の侍門
くり洪島、譜をあうりてふりあるは

あふとてうらうらうて蒸物合をうらふ玉の玉
とけりあをわさくうらうらうれまはる事
ひさく交小河水乃てけをゆくぬら
あふ成されうらうはま甲しとるうら
とハあふとて乃をうらハくくまこく
もやうらう心申はるこつて強人らふ
れあふとあふらにふらまはらうら
ら先をうらうらうらうらうらも真あふ
あふうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうら

孝之之執とろ好しけろるる乃を内さ好を
恨と思とさるか入るる乃道遠よりをハ
且花乃香れ面款もてさあせハとろくの
あわし成々先とたろより佳聞香悉能知乃
徳公月れあふりうれし道字こいつ海
くか比兵部卿乃文のく款もあそあ
とやと早下しきまゆへふしうれ煙も
たらうていささあくもるるゆりぬ判者れ
とろく識も忘乃葉存れつとろ先朱を
つと道事にあさるといれ正あはつり
まか

まうれもあつとひとを成る會か 鶴胡
班乃尾下りはさそ道遠遊れ茶以乃
まか

文亀二林鐘下旬

実隆書

名香合人数

後菴肖拍

咲山軒大偈

松田丹後守長秀

朝
帰牧菴玄清

二階堂行二

肥田龙京亮兼直

内藤大藏元種

波々伯部兵庫助盛口

志野三郎左衛門宗信

志野三郎祐憲

指丹後守長方

事書作者

三條西殿

清書業者

夢庵岸柏

大島一林軒子日

長洲軒

此の書は... (Faint handwritten text)

名番目録

太子

本所伝書羅

まていしや色か... (Faint handwritten text)

蘭奢待

伽羅

はるゆり... (Faint handwritten text)

道通

伽羅